

富山タイ協会 平成 25 年タイ視察ミッションについて

富山県バンコクビジネスサポートデスク

北陸銀行バンコク駐在員事務所 所長 馬場 正樹

富山県とタイの経済・文化交流の振興を目的に、2012年7月に「富山タイ協会（以下・協会）」が発足しました。タイとの経済交流やタイの文化に関心のある約100の県内企業・個人が会員となり、同年3月にバンコクに駐在員事務所を開設した北陸銀行が事務局を務めております。

協会のメインの活動となるタイ視察団派遣は、2012年12月に続いて今回が2回目となりました。私は事務局・北陸銀行のバンコク事務所長として、野村正也会長（北陸電気工業㈱代表取締役会長）以下、総勢9名の視察団の全行程に随行いたしました。今回はその様子をご報告いたします。

1. スケジュール

日付	訪問先等
5月15日(水)	小松→成田→バンコク ホテルチェックイン後、市内レストランで結団式・夕食
5月16日(木)	SUBCON THAILAND（工業展示会）視察 タイ投資委員会（BOI）・副長官と会談 カシコン銀行訪問 北陸銀行バンコク事務所によるセミナー 富山県企業等との合同夕食会
5月17日(金)	ALUCON社（武内プレス工業タイ現法）視察 Osoth Inter Laboratories社（現地製薬企業）視察
5月18日(土)	バンコク市内視察 バンコク→羽田
5月19日(日)	羽田→富山

2. 各訪問先

(1) 結団式

15日夕刻に一行がバンコク・スワナブーム空港へ到着。バンコク市内のホテルへチェックインした後、市内の有名タイ料理店「Naj」にて、結団式を兼ねて夕食をとりました。

結団式では、野村会長より、「タイで活躍する富山県企業が既に40社近くに上り、今後も富山県とタイの交流が一層深まるであろう」とのお話がありました。

(2) SUBCON THAILAND視察

16日午前中、市内のバンコク国際展示場「BITEC」にて同日から18日まで開催されている、タイ最大級の工業展示・商談会『SUBCON THAILAND 2013』を視察。同展示会には、富山県が海外の展示会では初となる「富山県パビリオン」を出展、富山県企業6社がブースを設けて、各社の製品、技術をPRしました。

午前10時から、富山県パビリオンの前で同パビリオンのオープニング式典を開催。小城慎治県商工労働部次長、在日本タイ大使館のパリエス・ピリヤマーサクン公使に続いて、野村会長も祝辞を述べられました。

また、富山県パビリオンには、会場を訪れていたプラサート・ブンチャイスック工業大臣も立ち寄られました。プラサート大臣は、昨年12月にタイを訪問された石井富山県知事と工業省で会談されており、富山県企業のタイへの積極的な進出について、感謝の意を表されました。



SUBCON 富山県ブースを訪れたプラサート工業相

(3) BOIとの会談

SUBCONを視察後、BITEC会場内の応接室で、富山タイ協会の一行はタイ投資委員会（BOI）の副長官、ワサナー・ムトゥタノン女史と約40分間会談しました。この席では、富山とタイの経済交

流を深めたい、との趣旨の石井富山県知事からウドム・ウォンピワチャイBOI長官宛の親書も手渡されるとともに、野村会長からも、タイに進出している富山県企業や、今後進出する企業に対するBOIの一層の支援を依頼されました。

また、昨年7月の富山市での富山タイ協会発足式典には、当時のアチャカBOI長官も出席いただいております。野村会長からワサナー副長官にも是非富山にお越しください、との申し出に、「是非行きたいですね」と笑顔でお答えされていました。

(4) カシコン銀行訪問

SUBCON会場を後にした一行は、タイの大手銀行、カシコン銀行の本店を訪問しました。カシコン銀行は、協会事務局の北陸銀行が2005年に業務提携していますが、現在では多くの日本の地方銀行と提携を拡大、日本人行員や日本語の堪能なタイ人行員多数を採用し、タイでの日系企業取引を積極的に推進しています。

カシコン銀行本店は、バンコク西部を流れるチャオプラヤー河（メナム河）にかかる優美なラマ9世橋のたもとに壮大な高層ビルを構えています。最上階部分の応接スペースからは、河を挟んでバンコクの街が遠望できるロケーションです。カシコン銀行では、バントゥーン・ラムサム会長兼CEO、パタナポン・タンソンブーン常務などに対応いただきました。バントゥーンCEOからは、カシコン銀行が日系企業との取引推進に注力していること、富山県企業の一層のタイ進出を期待し

ていることなどのお話がありました。

CEOとの懇談後、カシコンリサーチセンターのルチパン・アッサラット主任研究員より、タイのマクロ経済概況に関するレクチャーをいただきました。

(5) 北陸銀行バンコク事務所によるセミナー

この後宿泊ホテル（バンコク市内・インペリアルクイーンズパーク）に戻り、19:00からの合同夕食会に先立ち、夕食会場を使って北陸銀行バンコク駐在員事務所・馬場所長より、2015年に予定されているアセアン経済統合（AEC）に関するセミナーを開催しました。タイ協会のメンバーからは、「AECについてはいまひとつ内容が解らなかったが、今回はまとまった話が聞けてよく理解できた」との声がありました。

(6) 合同夕食会

19:00より、ホテル内レストランの会場で、富山タイ協会、富山県機電工業会、SUBCON出展企業、在タイ富山県企業、富山県庁などによる、総勢約50名の合同夕食会を開催しました。

野村・タイ協会会長、小城・富山県商工労働部次長の挨拶に続き、庵 栄伸・北陸銀行常務執行役員の発声により乾杯、和やかに食事・歓談となりました。タイで事業を行っている富山県企業10社も参加されており、現地での苦労話や情報交換などでたいへん話が弾んだようです。

(7) ALUCON社視察

17日午前、一行はタイで活躍する富山県企業として、武内プレス工業株式会社のタイ現地法人、ALUCON PUBLIC CO., LTD.を訪問しました。ALUCON社は、バンコク近郊のサムットプラカーン県に本社工場、バンコク東南部、車で約2時間のチョンブリ県シラチャにシラチャ工場を保有しますが、今回はシラチャ工場の視察です。

ALUCON社はタイの証券取引所に上場しており、日本の武内プレス工業同様アルミ缶、アルミ



カシコン銀行訪問 バントゥーン会長兼CEOより記念品

チューブを製造するほか、原材料となるアルミスラッグの製造も手がけています。当社で生産するアルミスラッグは、自社の材料として使用するほか、武内プレス工業にも出荷しています。

視察したシラチャ工場は、約38万㎡という広大な敷地に、現在9棟目の工場を建設中で、その生産規模（缶・チューブ各年間3億本以上）はアジア最大です。一行は、武内社長による会社説明を受けた後、アルミスラッグ製造ライン、アルミ缶製造ラインを順次視察。その規模の大きさに圧倒されていました。

(8) Osoth（オーソット）社視察

ALUCON社訪問後、近くのゴルフ場レストランでの昼食をはさみ、午後はタイの地場製薬企業、Osoth Inter Laboratories Co., Ltd.を訪問しました。

Osoth社は1987年設立、売上高年間約5億バーツ（約15億円）の中堅製薬企業で、自社ブランド商品とOEM受託の両方の製造を行っています。チョンブリ県シラチャのサハ・グループの工業団地内に現工場がありますが、近くの工業団地に既に土地を確保しており、2年後には新工場を立ち上げる予定です。応対していただいたVicha エグゼクティブディレクターからは、「富山県は製薬企業が多いとのことで、当社の新工場ではぜひ富山の企業からOEM生産を受託したい」とのお話がありました。メンバーの日医工・赤根専務執行役員が、同じ製薬企業ということで商品ラインア



Osoth社訪問

ップや生産能力などについて熱心に質問されました。

(9) バンコク市内視察

18日（土）は最終日ということで、バンコクの有名観光スポットや商業施設を視察しました。訪問したタイで最も有名な寺院「ワット・プラケオ（翡翠寺）」や「ワット・ポー（寝仏寺）」では、タイの仏教文化に触れ、カンボジア、ミャンマー、ラオスなどの仏塔の様式の違いなども見ることができました。

まとめ

昨年12月に続き、第2回目のタイ視察団派遣でしたが、今回は富山県や県内企業がブースを出展したSUBCONの視察や、BOI副長官との面談、地場大手銀行のカシコン銀行訪問、富山県企業（ALUCON）や地場企業（Osoth）の訪問と、短い日程の中で、バラエティに富んだ内容となりました。

メンバーの中には、タイには何度も来ている方と、殆ど初めてという方がおられ、メンバー同士でタイについて教えあう、という場面も見られました。また、北日本新聞、富山新聞の記者の方も同行され、その日の動きを即座に本社に送信、翌日の朝刊に記事が掲載される、という、スピード感もありました。

野村会長がご親類のご不幸のため途中離脱されるというハプニングもありましたが、残ったメンバーで以降の日程を無事こなし、特に体調を崩される方もなく富山へ戻られました。

こうした視察団は、富山タイ協会の重要な行事として、今後も多数の会員の方のご参加を募り、富山県内に一人でも多く「タイ通」の方を増やしていくのも、協会の存在意義につながると考えます。

以上